

Risk Flash No.147

(Vol.4 No.37)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404
 FAX:0749-27-1189 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- ご挨拶：リスク研究の「社会的使命」・・・Page 1
- 論文紹介：Study Plans Concerning Monetary Evaluation of Mitigation Measures for the Fukushima Daiichi Accident・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・Page 2

ご挨拶

リスク研究の「社会的使命」

と だ か ず お
 陵水会理事長 戸田一雄

本学経済学部が昨年創立90周年を迎え、同窓会全会員の想いとして、記念のしるしを残すべく色々な事業、催しを実施致しました。その中で最大の記念としたのが母校の発展を願い、母校が推進している「世のお役に立つ教育研究をバックアップする」ことでした。

多くの皆さまからご賛同を得、「教育振興基金」を先日大学に贈呈させて頂きましたが、その際「ぜひこの研究に役立てて欲しい」との声を頂いた一つが「リスク研究」でした。リスク研究を本学の代表的な教育研究にしようと、十年前から取り組んで来られたのが今、着実に成果を上げつつある証ではないか？と私達は見ております。

この十年を振り返りますと、リスクの研究が進んでいるものの、社会の現実では逆にリスクが増加の一途を辿っています。リーマンショックに代表される金融資本主義の破綻、福島第一原発事故による環境汚染、後を絶たない食品偽装や不明朗な資金のやり取り、国の安全を脅かす近隣諸国との軋轢などがそうです。「リスクの克服」は今や国家・国民挙げての大課題であり、具体的かつ着実に課題を潰して行くための処方箋が無くてはなりません。

私は、在職時、さる商品欠陥事故の回収・無償修理の陣頭指揮にあたった経験があります。「これ以上被害を拡大させれば会社は潰れる」切羽詰まった状況の中で頭の中を巡っていた想いは、お世話になって来た世間に感謝をし、もう一度世間と共に苦楽を共にする会社に戻すことでした。（それまで何十年もそうやっていたはずが、ご迷惑をおかけした。）そしてそのような会社に戻すことが出来るならばと、社を挙げ全員でどんな苦労も厭わずやりました。

リスク克服の活動は単なる表層的な危険信号の発信に留まらず、研究を通じて世のリスク回避が具体的に進む為の大きな指標を与えることだと思います。そのためリスク研究は次の3つの視点を大切に、更なる努力をして頂きたいと思っています。

- 一、現場・現実から絶対に目を離さない。
- 一、言葉の遊びに終わらせない。
- 一、表層的な分析で終わらせない。真の原因まで遡る。

これらは、リスク研究とは、一旦指摘した以上世を良くするまで、具体的活動となり成果を上げるための「社会的責任」を全うして行かねばならぬ活動であることを意味します。

それは即、社会を変えるプロの仕事であり、そのことで悩み苦しんでいる多くの人々が光明を見出し、勇気を持って動くための原点でなくてはなりません。「リスク研究」の成功を心より願っております。

論文紹介

Study Plans Concerning Monetary Evaluation of Mitigation Measures for the Fukushima Daiichi Accident

著者：

やまね ふみひろ

山根史博(神戸大学大学院経済学研究科)

まつしたきょうへい

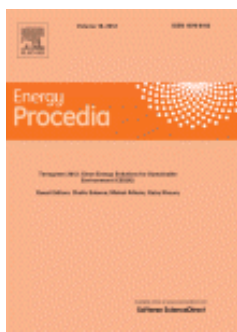
松下京平(滋賀大学経済学部)

おおがきひであき

大垣英明(京都大学エネルギー理工学研究所)

あさのこうた

浅野耕太(京都大学大学院人間・環境学研究科)



収録：Energy Procedia, 34, pp.937-944.

著者のつぶやき

東日本大震災に伴う福島第一原発事故は日本に深刻な社会不安をもたらしました。とりわけ福島第一原発を中心に拡散した放射能汚染の問題はこれまでに私たちが直面してきた種々の問題とは根本的にその性質が異なることは明白です。今もなお私たちは原発利用が抱えるリスク、たとえば将来起きうるかもしれない放射能汚染という問題、に対して大きな不安に苛まれています。もちろん行政、専門家、電力会社などが人びとの不安を少しでも和らげるために様々な取り組みに従事しています。ですが残念ながら、私たちの不安は十分に払拭されているとは言いがたいのが現状です。本論文では、私たちの不安がなかなか払拭されない理由について考察した上で今後どのような取り組みがなされるべきか、その方向性について議論しています。ここでは、そのうちの一つ、「ヘドニック価格分析を用いた原発リスクに関する最適な影響緩和措置のあり方」について紹介したいと思います。

ヘドニック価格分析とは、土地に関連する属性とその価格の関係から人びとが各属性に見出す経済的価値を明らかにする環境評価手法の一つです。実際、土地価格とその周辺地域の放射線量の濃度との間には一定の関連が見受けられ、放射線量濃度が高い地域ほど土地価格が低いということが分かっています。そこで、福島第一原発事故以降、各原子力発電所施設周辺地域ではストレステスト、地震・津波対策、そして原子力発電の取り組みに関する情報公開等の原発リスク緩和に関連した様々な措置が講じられてきたことに着目し、それら措置の内容に応じて土地価格が今後どのように変動するかを分析することで、人びとがどのような措置を評価しているのかを明らかにすることが可能になるのではないかと予想しました。現時点では、原発リスク緩和措置が講じられてから期間がそれほど経過していないため、分析の肝となる土地価格の変動を十分には観察できないというデータ上の制約に直面していますが、今後随時土地価格データを収集することで分析を実用段階に持ち込むことの重要性について指摘した次第です。(松下京平)

リスク研究センター通信

葛山先生 退職記念講演のご案内

平成26年3月末をもって退職されます滋賀大学経済学部・葛山善基教授の最終講義が次のとおり開催されます。学外の方の受講も歓迎いたします。

日時：平成26年1月20日(月)4限(14:30-16:00)

テーマ：「理論・技術・製品・芸術の世界を歩いた私の人生」

場所：15番教室

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的の問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

■ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、
得田雅章、宮西賢次、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局
(Office Hours:月一金 10:00-17:00)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp